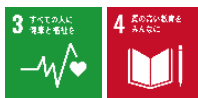


【事業の分類】

関連するSDGsの目標



— — — —

基本目標	重点課題プロジェクト		施策コード
	”社会とつながる”子育て応援プロジェクト		810
政策	その他の特色		コストの方向性
	市長公約		コスト増大
施策	事業種	継・新	公共施設等総合管理計画
	ソフト	新規	

【事業の内容】

事業名	放課後子ども広場モデル事業			担当部課	子ども教育部	子ども課	
事業目的	放課後児童クラブ以外に小学生が安全・安心に過ごせる居場所づくりを行い、共働き世帯等の保護者の子育てを支援する。			事業主体	糸島市		
				実施方法	全面委託		
事業内容	放課後に小学校やコミュニティセンターなどで、児童を対象に遊びや地域の人材を生かした体験活動などを行う子ども広場を展開する。 ・事業実施(モデル検証)期間: 令和5年12月から令和6年6月まで			進捗状況・現状	放課後子ども教室、子ども広場を継続的に実施している小学校がない。		
事業期間	令和5年度～令和6年度			会計種類	一般会計		
総事業費	3,029	千円	(うち市予算化分) 3,029	千円	款	項	目
前回の実施計画に計上した総事業費		千円		千円	3	2	1

【担当課による評価】

◆活動指標

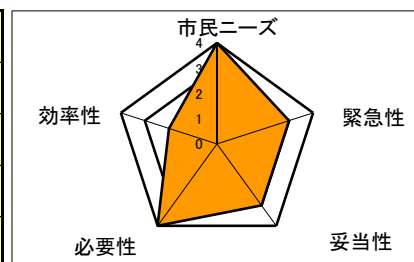
指標	現状値	当該年度目標値	最終目標値
放課後子ども広場の登録児童数(人)	0人	98人	146人

◆長期総合計画基本計画の施策に関する目標達成指標 ※本事業やその他関連事業の実施により達成される数値

指標	基準値 (R1)	当該年度目標値	目標値 (R7)
安心して子どもを生み育てられる環境が整っていると思う市民の割合(市民満足度調査)	41.0%	43.0%	45.0%
地域や社会をよくするために何をすべきか考えることができる中学3年生の割合(全国学力・学習状況調査)	34.5%	38.0%	40.0%

◆事業の必要性など

事業の必要性	④非常に高い。必ず行うべきである。
行政関与の妥当性	③内容的に行政が行うべき事業である。
事業の効率性(費用対効果)	②費用に見合う効果は期待できる。
緊急性	③今行わなければ、近い将来必ず市民生活に支障が出る。
市民ニーズ	④非常に高い



【事業費】

放課後子ども広場モデル事業

※上段 ():市の予算を通らない事業費 【】:繰越費 斜体:ランニングコスト

(単位:千円)

		令和5年度	令和6年度	令和7年度	合計	
財源内訳	国庫支出金					
	県支出金					
	地方債					
	その他	2,096				2,096
	一般財源 (a)		933			933
事業費 (A)		2,096	933			3,029
主な事業費内訳		委託料1,555千円 物置購入541千円	委託料933千円			
従事職員数(人)		0.7	0.5		平均人件費	8,700
人件費 (B)		6,090	4,350		人件費割合 (%)	77.5
総コスト (A+B)		8,186	5,283		総コスト計	13,469
実質地方債負担	交付税措置額					-
	一般財源充当額 (b)					
	(a+b)					
財源の種類	特定財源の名称 (使途が定められた財源)	根拠法令等			補助率等 (地方債は交付税措置率)	
国庫支出金						
県支出金						
地方債		(充当率 %)				
その他	ふるさと応援基金繰入金 企業版ふるさと納税繰入金	糸島市ふるさと応援寄附条例 糸島市企業版ふるさと納税基金条例				

年 度	積算基礎	合計
令和5年度	子ども広場業務委託料1,555千円、物置購入541千円 債務負担行為 (R5～R6) :933千円	2,096 千円
令和6年度	子ども広場業務委託料933千円(債務負担行為分)	933 千円
令和7年度		千円

担当部長による 総合評価	長期総合計画に記載されている重点課題であり、令和6年度以降に子ども広場を拡大させるには、モデル事業の実施、検証が不可欠なため、必要な事業である。
-----------------	--